

毎週日曜発行
2023 2/19

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

ニュース



芥川賞・直木賞って？

きょうのテーマ



佐藤さんが勤(つと)める丸善(まるぜん)仙台アエル店では受賞作が売り切れ、次回入荷時期を伝える紙が張(は)られた
= 1月20日午前、仙台市青葉区

仙台市の佐藤厚志さん
と言えば、今話題の人だ
ね。東日本大震災後の日
々を懸命に生きる人々を
描いた小説「荒地の家族」
で、有名な文学賞であ
る芥川賞を受賞した作
家です。芥川賞って、ど
んな賞なんだろう。一緒
に発表される直木賞も含
めて、専門家に教えても
らったよ。

正式名称「芥川龍之
介賞」と「直木三十五
賞」は1935年、小説
家である2人の業績を
記念し、雑誌「文芸春
秋」を創刊した作家菊
池寛が創設しました。芥
川賞は純文学、直木賞
は大衆文学を対象とし
ています。



仙台市の出版社、荒
蝦夷代表の土方正志さん
(60)は「純文学は、作家
が個人や社会の内面につ
いて深く考え表現する
小説です。大衆文学は、
読者を楽しませるもの。
芥川賞は新人、直木賞は

ベテランが受賞すること
が多いです」と説明しま
す。
両賞とも、毎年6、12
月に候補が発表され、翌
月の選考会で受賞作品が
決まります。「候補にな
っただけでも注目が集ま
り、受賞すればベストセ
ラーになります。受賞作
品を読んで本好きになっ
た人も多いと思います」
と土方さんは言います。

宮城県ゆかりの受賞者
は、芥川賞が辺見庸さん
(1991年)と石沢麻
依さん(2021年)に
続いて佐藤さんで3人
目。直木賞は故大池唯雄
さん(1938年)と熊

年2回選考 候補作に注目

谷達也さん(2004
年)、恩田陸さん(16年)
が受賞しています。



かつて宮城県は、山形
の斎藤茂吉、岩手の宮沢
賢治のように県を代表す
る作家がおらず、「文学
不毛の地」と言われたこ
とも。仙台市在住の熊
谷さんや伊坂幸太郎さん
らが活躍し、「作家が住
む街」と認知度が上がっ
たのは、ここ20年のこと
だそう。

土方さんは「宮城は仙
台が都会だし、海も山も
近くにあつて着想を得や
すい環境にあります。
東京との距離も近くなり
ました。あとは震災の経
験。佐藤さんのように、
あの大災害をどう捉える
か考え続ける作家がいま
す」と分析します。

佐藤さんは、震災後に
始まった仙台短編文学賞
を20年に受賞していま
す。「次は君たちの番で
す。まずは仙台短編文学
賞を目指して、小説を書
いてみて」と土方さんは
呼びかけています。

今週の注目ニュース

◇23日(木) 富士山の日
2(ふ)2(じ)3(さん)の語呂合わせから、富士山を
抱く静岡県と山梨県が、条例で制定しました。この
時期、空気が澄んできれいに見えるんだって。富士山
は2013年に、世界遺産に登録されたよ。

きょうの紙面

- 2面 みんなのギモンにこたえるモン
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 エキマトペ「いいね！」

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ